

東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道德の時間の年間指導計画（第6学年）

テーマ:見つめよう 自分を はばたこう 未来へ

学校教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道德教育重点目標

進んで学ぶ子
命を大切にする子
手をつなぐ子

めざす6年生の子どもの姿

- 自分のよりよいところをさらに伸ばす
- 豊かな人間関係を自分から築く
- 進んで道德的实践をする

道德の時間の重点内容項目

- 1 - (6)個性伸長 ・ 2 - (2)思いやり・親切 ・ 3 - (2)生命尊重 ・ 4 - (1)社会的役割の自覚と責任 ・ 4 - (4)勤労・社会奉仕

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	総合的な学習の時間	道德の時間		常時活動
			ロング ユニット	ショート ユニット	
一 学 期	社会 「日本の歴史」	見つめよう ふるさと ○ 修学旅行先と東西条を比べよう ○ ふるさと探検 ○ ふるさとマップづくり ○ 伝えよう「安芸国分寺」	2 - (1) 4 - (7)	最高学年として 4 - (1) 4 - (6)	ふれあいそらじ・ふれあいサーキット
	特別活動 「創立記念発表会」			自分向上プロジェクト	
二 学 期	国語 「海のいのち」	見つめよう 命 ○ 桜ヶ丘保育園・記念病院を訪ねよう ○ 働かされている方にお話を聞こう ○ 「あったか会」の準備をしよう	2 - (5) 4 - (4) 3 - (2) 2 - (2)	1 - (6)	
				読書タイム	
三 学 期	家庭科 「えがおいっぱい大作戦」	はばたこう 未来へ ○ これまでの自分を見つめよう ○ ありがとうを伝えよう ○ 世界のなかのこれからの自分を見つめよう	1 - (2) 4 - (8) 1 - (6)	えがおいっぱい 2 - (2)	
	社会 「世界の中の日本」 理科 「ヒトと自然」 特別活動 「卒業式」				

（太字が重点項目）

第6学年1組 道徳学習指導案 自分向上プロジェクト

「友樹の宿題」【ショートユニット】 1—(6) 個性伸長 (自作)

本時のねらい

自分の特徴を知って、よくないところを改め、よいところを伸ばしていこうとする態度を養う。

心のノートを活用する授業

指導者 東広島市立東西条小学校 古山 礼子

1 主題設定の理由

ねらいとする価値

日本の児童は、米国や中国の児童に比べて自尊感情や自己肯定感が低いことが今日の学校教育の大きな課題となっている。自分に対して自信がもてない、自分らしさや個性が把握しきれない現代の児童の姿の一面がある。

どのようなことに興味や関心をもつか、また、身に備わるどんな特技や能力をもつかは人それぞれであり、それがその人間の特徴になっている。自らのその特徴を知ることによって、それを生かしたいという願いが生まれ、それに向かって努力することで、人間は、豊かな人生を獲得することができる。

しかし、自分の特徴は、しばしば級友や兄弟との比較において認識されることが多い。本当の自分の特徴とは、「自分はあくまでも自分なんだ」という自覚に基づいて発見されるものである。「よりよく生きる」ために、自分の伸ばすべき長所は何か、改める短所は何かと自分を見つめることが大切である。そのことが、自分への自信につながり、自己肯定感を育てるのである。

心に響く資料

6年生の児童の日常的な思いが表れるように、資料を自作した。

友だちと比べて自分のよいところが見つからないと悩むぼくの姿は、児童にとって共感しやすい。友だちと比べるのではなく、短所だと思っていたところの見方を変えたり、それを改善する方法を探したりするきっかけになる資料である。

ぼくがどんな作文を書いたかについて焦点をあてて話し合うことで、自分のよさを積極的に見付け、自分を磨いていこうとする道徳的価値に迫ることができる。

価値の自覚を深める工夫

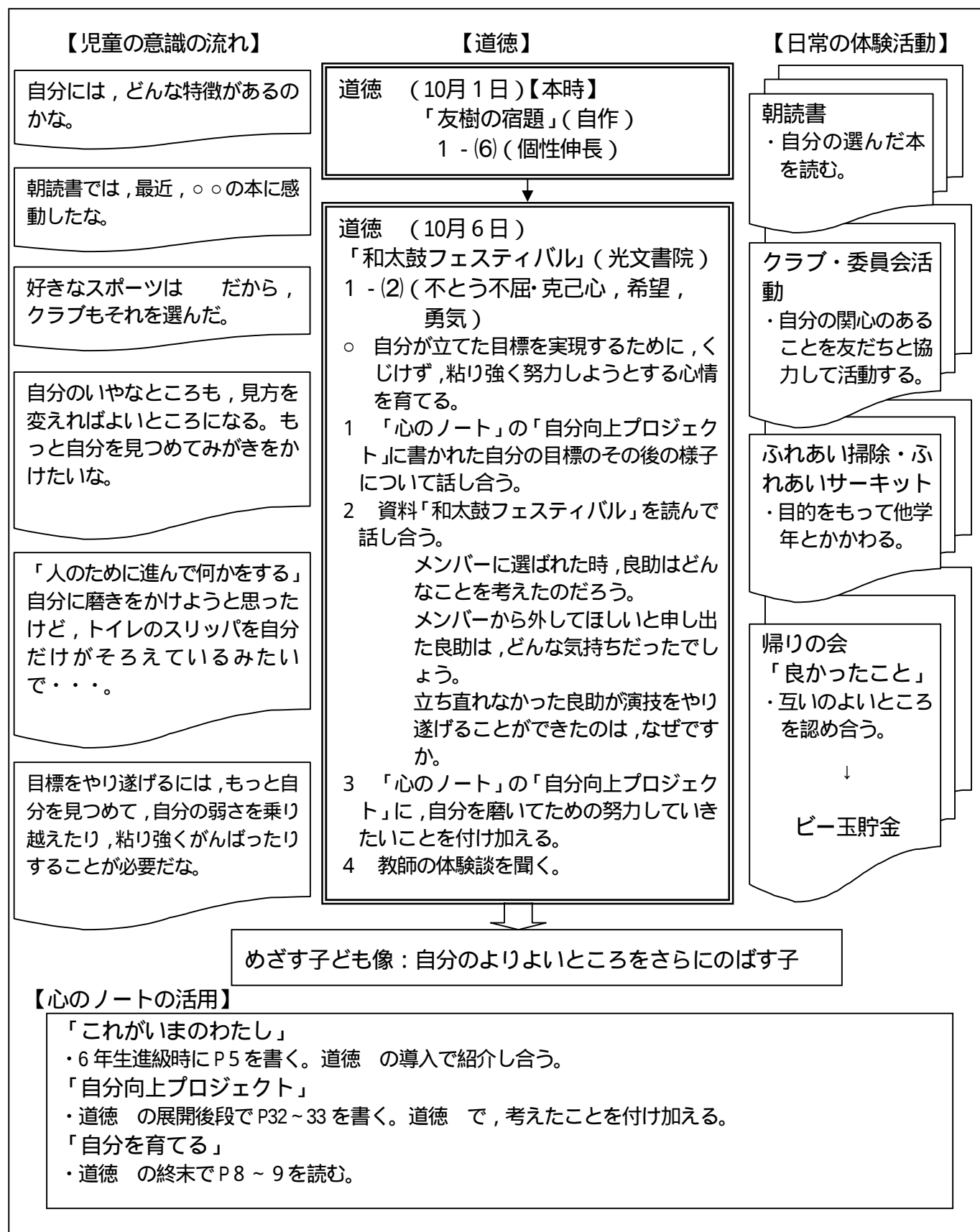
同一視点の2時間連続ユニットで「自分向上プロジェクト」を構成する。本時では、展開後段で、「心のノート」の「自分向上プロジェクト」を書き込むことによって、価値の一般化を図る。その際、グループでの話し合い活動を取り入れることによって、他者理解を深めると共に、自己理解が深まるようにする。

次時では、導入で、「自分向上プロジェクト」のその後を振り返ることで、児童の意識の流れを大切にする。また、「和太鼓フェスティバル」という資料を用いて、自分が立てた目標に向かって努力していこうとする心情を育てていきたい。

児童の実態

児童は、自分の長所や短所について、家族や教師、あるいは友だちから指摘されて気付いている。高学年になると、自分と友だちとの違いを強く意識するようになるため、特に友だちと比較することで、自己の能力の優劣や性格の違いに気付くようになるが、表面的な認識が多い。そこで、いざ、自分のよさは何か、持ち味は何かと問われると、「運動が得意」「ピアノ演奏が得意」など、特技や趣味をあげることが多い。確かにこれらも「自分らしさ」の一面ではあるが、「個性」という視点から自分をさらに見つめていくことで、「誰にでも親切」「いつも笑顔」など「人間としてのよさ」も見出すことができると考える。

2 次時の主な学習活動と日常の体験活動との関連



3 本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	1 友だちの長所について話し合う。 ○こんなよいところを持っている人です。さて、誰でしょう。 ・サッカーが好き。休憩時間は、いつも元気よく外で遊んでいる。 ・飼育委員で、ウコッケイのえさやりを忘れたことがない。	○「心のノート」P5に書いた各自のよいところを名前を伏せて紹介することで、友だちの個性について関心をもたせる。
展開前段	2 資料「友樹の宿題」を読み、話し合う。 ○家で作文用紙を広げている時に、友樹はどんなことを考えたでしょう。 ・ひとつも自分のよいところが見つからない。 ・良太や文也は、自分のよいところが見つかったよいな。 ○父の話を聞いた時、友樹はどんなことを考えたでしょう。 ・よいところを教えてくれると思ったのに・・・。 ・悩んでいたことを乗り越えるために努力を重ねた大山のぶ代さんはすごいな。 ・悪いところも見方を変えるとよいところになる。 友樹は、どんな作文を書いたでしょう。 ・最後まで確実にやりとげるところがよいところだ。 ・よいところを伸ばしたり、自信がないところを変えたりする努力をしていきたい。	○場面絵を提示すると共に短冊を活用することで、場面の様子がつかめるようにし、自分の長所が見つからずに悩んでいる主人公の気持ちに共感できるようにする。 ○短所も見方を変えると長所になることや、短所を乗り越えることが自分の成長につながることにについて考えることができるように、切り返しの発問をする。 ○父から言われたことをもとに、自分自身を見つめ直している主人公の気持ちを深く考えることができるように補助発問をする。
展開後段	3 自分の伸ばしていきたいことを考える。 自分にエールをおくろう。どんなところを伸ばしていきたいですか。 ・創立記念発表会の曲は、むずかしくてもくじけずにやっている。粘り強いところを伸ばしていきたいな。 ・トイレのスリッパが乱れていたなら、そろえている。人のためになることを進んでやる心を伸ばしていきたい。	○「心のノート」P33に、自分の伸ばしていきたいことを書き、友だちやまわりの人の意見も聞いて、もっとかがやく自分になるための意欲を高める。
終末	4 「心のノート」を読む。 「自分を育てる」のページを開いて読んでみましょう。 ・人生というキャンバスに自分らしい色で自分らしい絵をえがきたいな。	○各自のペースで黙って読むことによって、これからの自分が見つめられるようにする。

○基本発問 中心発問 今までの自分を見つめる発問 これからの自分を見つめる発問

4 教師の評価の観点

- 道徳的価値（個性の伸長）を自らとのかかわりでとらえ、これから自分のよいところを伸ばしていこうとしていたか。
- 「心のノート」の活用は、有効であったか。

5 児童の自己評価の観点

いつもの自分を見付けることができたか。
 友だちの考えをしっかり聞いて、自分の考えを深めることができたか。
 これからの自分に自信が持てたか。

友樹の宿題

「今日の宿題は、自分のよいところを作文に書いてきてね。」

先生の言葉に、ぼくは、心の中でやばいと思った。「自分のよいところ」なんて全然思いつかない。今日は、おもしろいテレビがあるのに、これじゃあ、ぼくは、ずっと宿題ができなくて、いじいじして、母さんにもおこられるにちがいない。ぼくは、暗い気持ちになった。

学校から一緒に帰った良太と文也の話題は、今日の宿題のことだった。

「ぼくは、バスケットのことを書くよ。四年生のときからずっと、スポーツ少年団をやっているだろう。家でも、シュートの練習をずっとしているから、ゴールを決めるのは自信があるんだ。」

良太の言い方は自信たっぷりだった。そういえば、良太は、運動神経がよいもんな。ぼくは、足が遅いし、スポーツは苦手だ。

「ぼくは、犬の散歩を毎日、雨の日もやっていることを書くのかな。まあ、このことを書いていたら軽く三枚は書けるね。」

文也も、簡単に自分のよいところを見付けているようだ。それに三枚も作文を書くだって。うそだろう。そんなに書くのかよ。文也は作文を書くのが得意だからな。この間も先生にほめられていたな。ぼくは、ひとつも自分のよいところが見つかりそうにない。

「ところで、友樹君は、何を書くつもりだい。」

突然、ぼくに振られたので、心臓がどきんとした。

「えっ。それは・・・それは、明日のお楽しみだよ。それじゃあ。また、明日ね。」

ぼくは、二人と別れて、ぴゅうつと全速力で家に走って帰った。

家に帰って、作文用紙を広げてみたが、案の定、一文字も書けない。良太や文也と違ってスポーツも作文も苦手だ。「がんばるなあ。」とよく、良太や文也から言われる。ああ、ぼくには、ひとつもよいところがないのかと思うとため息が出てきた。時間はかりが過ぎて

いき、とうとう七時をまわった。ぼくは、夕食のことが気になり、台所に行った。

リビングには、父がいた。ぼくは、思いきって父に宿題のことを相談した。

「宿題だから、自分の力でやらないといけないな。でも、ヒントをあげよう。ドラえもん、自分の声を出している大山のぶ代さんを知っているだろう・・・」

父は、「どら声」で悩んで、人前で声が出せなくなっていた大山のぶ代さんが、自分の声を変えるために練習を重ねて、結局、ドラえもんの声をするようになり、声優、女優とはばいた話をしてくれた。

ぼくは、また、机の前で考えた。父が「自分のよいところ」を教えてくれると思っていたのに、他の人のよいところだったのだ。ちよつとがっかりした。でも、「どら声」が悩みのもとだったのに、他の人には出せないその「どら声」が大人気になっているというのは驚きだった。短所は、見方を変えれば、その人の大きな長所になるということだ。

では、ぼくの短所は何だろう。ぼくは、良太や文也に言われる「がんばる」ということについて考えてみた。「がんばる」は、見方を変えれば、こだわりを持つということだ。いいかげんにしないで、自分が納得するまでがんばることだ。ぼくは、確かに、やりとげるまでに時間がかかるけど、最後まで確実にやりとげる。この間の大掃除では、トイレの床も壁も全部磨いた。終わったあとは、とてもすがすがしかった。夏休みにやった酸性雨の研究も、途中でめんどくさくなつたけど、計画通りに最後までやりきった。

ぼくは、自分で自分に「がんばっているじゃないか。」とエールをおくりたくなった。「自分のよいところ」は、自分でのばしていくものだ。「自信がない」とか「よいところがない」と思っていた自分を変えていくのも、自分自身だ。

ぼくは、晴れ晴れとした顔で作文を書き始めた。